


令和6年8月6日

## 滋賀県内経済情勢報告

(令和6年7月判断)

## 1. 総論

【総括判断】 「緩やかに持ち直している」






項目	前回 (6年4月判断)	今回 (6年7月判断)	前回比較
総括判断	一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等もあり、持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直している	

(注) 6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【主な項目の判断】

項目	前回 (6年4月判断)	今回 (6年7月判断)	前回比較
個人消費	回復に向けたテンポが緩やかになっている	回復に向けたテンポが緩やかになっている	
生産活動	一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等もあり、一進一退の状況にある	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
設備投資	5年度は前年度を上回る見込みとなっている	6年度は前年度を上回る見込みとなっている	
企業収益	5年度は増益見込みとなっている	6年度は増益見込みとなっている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気の下押しリスクとなっている。また、物価上昇等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「回復に向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向がみられるものの、値上げの影響により売上は増加している。

コンビニエンスストア販売は、行楽地の店舗では好調であるものの、郊外では競合等により来店客数が減少するなど、横ばいの状況となっている。

ドラッグストア販売は、客単価が上昇しているほか、足下では猛暑の影響により夏物商品の売れ行きが好調であることから、売上は増加している。

ホームセンター販売は、生活必需品以外の買い控えにより来店客数が減少していることなどから、売上は減少している。

家電大型専門店販売は、家電の買い替えサイクルの長期化がみられており、前年を下回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を下回っている。

観光動向は、国内旅行を中心に客足が堅調であり、コロナ禍前の状況に戻りつつあることから、回復しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 比較的安価なプライベートブランドや大容量商品の売れ行きが好調となっているなど節約志向がみられるものの、値上げの影響により食料品を中心に売上が堅調に推移している。(百貨店・スーパー)
- 行楽地の店舗は好調であるものの、郊外では近隣店舗との競合が激しくなっているうえに、消費者がより単価の安いものを求める傾向が強くなっていることにより、来店客数が減少している。(コンビニエンスストア)
- 値上げにより客単価が上昇していることから、前年比で売上が増加している。また、足下では気温が高くなっていることにより、制汗剤や日焼け止め、殺虫剤等の夏物商品の売れ行きが好調となっている。(ドラッグストア)
- 物価高に伴い生活必需品以外の買い控えがみられており、来店客数が減少している。商品別では、DIY商品やアウトドア商品の売上が低調となっている。(ホームセンター)
- 足下ではエアコンが好調となっているものの、物価上昇に伴い買い控えがみられており、家電の買い替えサイクルが長期化している。(家電量販店)
- 6月に発覚した認証不正問題の影響を受け、一部車種が出荷停止となり、納車できない状態になっている。(自動車販売店)
- 国内の個人宿泊客がコロナ禍前よりも増加しているなど、客室稼働率は堅調に推移している。(宿泊)
- 値上げの影響により来店客数は減少傾向にあるものの、客単価が上昇していることから、売上は好調となっている。(飲食)

#### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数（生産）は、半導体製造装置の需要が旺盛である「生産用機械」が高水準で推移しているうえ、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響が緩和されていることにより「輸送機械」が上昇していることなどから、生産活動は、緩やかに持ち直している。

#### (主なヒアリング結果)

- 海外向けの半導体関連製品の需要が旺盛となっている。今後についてもAI特需などにより好調に推移する見通し。(生産用機械)
- 半導体工場やデータセンター向けの大型空調モーターの受注が安定して多くなっている。(電気機械)
- 自動車部品について、一部自動車メーカーの生産・出荷停止前の水準には至っていないものの、受注が戻りつつある。先行きについては、更に回復する見通しとなっている。(輸送機械)
- 葉物野菜の高騰により、カット野菜などの小分け品の需要が高まっており、当社が製造している包装用フィルムの受注が増加している。(プラスチック)
- 車載用部品について、中国経済停滞の影響を受け、取引先が在庫調整を行っており、受注数が減少している。(情報通信機械)

## ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

新規求人数は前年を下回る水準となっているものの、有効求人倍率は、概ね横ばいで推移しているほか、法人企業景気予測調査（4-6月期）では、製造業・非製造業ともに「不足気味」超となっていることなどから、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 全体的には現在の仕事量に対する人員の不足感はない一方で、DX人材や技術職については確保が難しい。（電気機械）
- ようやく一人前になった者がキャリアアップのために転職するなど、離職者が多い。随時中途採用を行っているものの、ミスマッチなどにより採用に至らないことも多く、人手不足は継続している状況。（汎用機械）
- 新卒採用について、地元にはゆかりのある学生は採用に繋がりがやすいが、その他は大阪や京都の企業にとられてしまう。（情報通信機械）
- 物流面において、委託先の人員確保が困難になっているため、配送回数の見直しや共同配送の実施を検討している。（卸売）
- 給料のベースアップは行っているものの、近隣の製造業などと比較すると条件が劣っていることから、低賃金を理由に退職する者が多くなっている。（娯楽）
- 人手が足りない日はスキマバイトサービスを活用するなどして、不足分を補っている。（宿泊）

## ■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」6年4-6月期

6年度の設備投資は、全産業で98.4%増（対前年度増減率、以下同じ）の見込みとなっており、産業別では、製造業で100.2%増、非製造業で96.6%増の見込みとなっている。

## ■ 企業収益 「6年度は増益見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」6年4-6月期

6年度の経常利益は、全産業で3.9%（対前年度増減率、以下同じ）の増益見込みとなっており、産業別では、製造業で5.1%の増益見込み、非製造業で▲0.9%の減益見込みとなっている。

### 【その他の項目】

## ■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数で見ると、分譲住宅などが減少していることから、全体で前年を下回っている。

## ■ 公共事業 「前年を上回っている」

前払金保証請負金額で見ると、市町村などで増加していることから、全体で前年を上回っている。

## ■ 企業倒産 「件数、負債金額ともに前年を下回っている」

倒産件数、負債金額ともに前年を下回っている。

## ■ 企業の景況感 「「下降」超となっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」6年4-6月期

企業の景況判断 BSI でみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについては「上昇」超の見通しとなっている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 TEL077-522-6455